

身近な社会を観察する (1)

行動と行為、相互行為・社会的行為

(a). 行動 behavior 意図、意思が関与しない

vs.

(b). 行為 action 意図、意思が関与する (人間に特有)

⇒意図や意思を読み取る相手がいて、初めて〈行為〉となる。

*行動と行為の間には明確な境界線を引くことができるわけではない。

例えば、あくび (生理現象なら行動、退屈だとアピールをする行為かも)。

*行為は観察によって同定できるかという難問もある。例：散歩と徘徊

行為の特徴

T. Parsons によると、〈行為〉には以下の特徴がある。

①目標を指向している Goal-oriented

i). 動機志向 Motivation oriented : 自己にとっての利益を指向=快の追求

ii). 価値志向 Value oriented : 望ましいことを指向

価値とは? : 犠牲や対価を払わないと手に入らないもの (作田啓一)

*Parsons は i). は desired、ii). は desirable を指向することであると説明した

⇒Desired と Desirable は互いに矛盾しており、人間の行為には常に葛藤がある。

②環境の中で起こる (正の制約：手段、負の制約：〈狭義の〉制約 が存在する)

相互行為とその特徴

相互行為 (interaction) : 二人の間で互いに影響を及ぼす (及ぼし合う) 行為。

相互行為は単に個人個人の行為の和ではなく、それに特有な創発特性 emergent propertyがある。

行為の場合、自分と指向する目標の間には手段しかないが、相互行為の場合には、(じゃんけんのように自分で結果を決めることはできず) 他者の反応によって自分の行為の結果が左右される。それは、相互行為の両者に当てはまる (二重の依存、**double dependency**)。

○**期待の期待**：行為をするにあたって、相手の期待を期待すること。

社会学で言う「期待」は、よいことを望むという意味ではなく、「だろう」と推量（予期）するという意味。

期待の期待は、かえって行為者を裏切ってしまうことがある。両者が合理的に考えれば考えるほど、どちらにとっても望ましい状態に陥ってしまう。

(e.g. ゲーム理論、囚人のジレンマなど)

社会的行為とその特徴

社会的行為 (social action)：三者以上が関わる関係を指す。

G. Simmel は相互行為と社会的行為の違いを以下のようにまとめた。

社会的行為は

- ・多数派と少数派の関係が生じる
- ・嫉妬、ライバル心が生じる

という、相互行為の場合とは異なる特有の性質（創発特性）を持つ。

授業では、個人の行為⇒相互行為⇒社会的行為という順に拡大して考えた。

逆向きからも考えることが必要である。

社会的関係の中で、相互関係はどのように影響を受け、
その中で個人はどのように行為をしているのか。

★課題：来週までにゲーム理論をひとつ具体的に説明できるようにしておくこと。